

## 四国三郎 吉野川



吉野川流域交流塾  
塾長 大谷 國廣さん



NPO法人 新町川を守る会  
理事長 中村 英雄さん



美馬町まちづくり委員会「美馬未来塾」  
委員長 千葉 昭彦さん

吉野川からは中流を代表して、吉野川流域交流塾塾長・大谷國廣さんの発表です。大谷さんは「住民と自治体との垣根を越えた地域の活性化の『源流』にしたい」との思いで、地域に呼びかけて平成元年に吉野川流域交流塾を発足させました。「私はこの地で生まれて、吉野川で大きくなった。川を美しくするにはまず上流から。上流からいい水を流して、下の人に喜んでもらうのは、上に住んでいる者の務め」と、7月の第1日曜に河川清掃を行った四半世紀。地域の人や子ども達に川に

親しんでもらおうと、河川敷に菜の花を植えたり、吉野川の竹を使ったイベントも行っていきます。「今後は7月第1日曜に30%の節水を呼びかけていこうと考えています」と抱負を語ってくれました。

それぞれの発表に続いて、次世代育成の取り組みについて意見交換を行いました。

「利根川流域交流会は発足してまだ5年。広大な利根川流域の実態を知り、それを地域の水辺発展のために役立てていきたい。次男・三男に負けないように(笑)」と事務局の吉田正彦さん。それではと、筑後川は子どもを対象にした講座を紹介。なかでも、実習や体験学習など6回の講座を実施し、最終日には研究成果を発表し合う「こども学芸員養成講座」はユニークな取り組み。また、SNSやブログを使った若い世代による情報発信なども、あちこちでメモをとる姿が見られました。

吉野川の竹を使った活動をしている美馬未来塾の千葉昭彦さんは「よい子は行かない吉野川、行ってはいけない吉野川」になって久しい。子ども達に吉野川の自然の中で遊んでもらう取り組みを形にしたい」と。下流の顔・中村英雄さんは「川への感謝を忘れず、20年、30年先まで見つけて、小さなことでも続けていこう」と締めくくりました。「川に対する皆さんの熱い思いはとて1時間では収まりきらず、夜の懇親会へと続いたのです。互いに刺激を受け、それを地域に持ち帰ることで、それぞれの活動がより活性化する—— 実り多い兄弟談議でした。次回は中流の美馬市で開催予定です。」



吉野川交流推進会議の  
福永義和会長は見事な  
踊りでリードしました

シンポジウムの締めくくりは、阿波おどり。吉野川ハイウェイオアシスのステージで「みのだ連」とともに「ヤットサ〜」。「手足の出し方が難しい」と言いながらも、顔を会わすたびに踊っているのどずいぶんサマになってきました



## 東みよし町の子も達130人から 寄せられた「吉野川と私」



次世代の子も達は吉野川にどんな思い出やイメージを持っているのかな？ このたび、東みよし町の小学生に「吉野川と私」というテーマで作文を募集したところ、三庄、加茂、足代、昼間の4つの小学校から130点もの作品が寄せられました。魚釣りをした遊んだこと、カヌー体験にチャレンジしたこと、両親と川でゴミ拾いをしたことなどが、素直な文体で綴られていて、読んでみると顔がほころんできます。なかには、吉野川をあまり知らないで、おじいちゃんに昔の川の様子をインタビューしたという子どももいました。

シンポジウムに先立って、大谷さんや福永会長から記念品が贈られました。4校から出席した9人の子も達が、未来の川のリーダーになってくれることを願っています。

